（伊豆半島）観光関連の歴史

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
		ホテル・旅館・キャンプ場など	交通関係（道路）	別荘・住宅	その他
		観光施設・土産物店・飲食店	交通関係（鉄道）		
		温泉関係	交通関係（バス・タクシー）		災害・事故・事件・不祥事
		ゴルフ場	交通関係（船舶・航空）		訴訟・裁判案件など
		◎新規開業（旧建物買収のケース含む） □リニューアル・改装・増築 ＊計画発表			
		▲撤退 ■倒産 ☆提携 ⇒売却・譲渡			
710/-/-	和銅3年	来宮神社 創建			
730/-/-	天平2年	走り湯が発見される			
1160/3/11	平治2年			源義朝長男の源頼朝が、平清盛の命により伊豆の蛭ヶ小島に流される	
1180/-/-	治承4年			源頼朝が三島社（大社）に祈願を3ヶ月の間続ける。8/17に伊豆韮山山木の平兼隆を攻める。（旗揚げ）	
1188/-/-	文治4年	源頼朝が二所詣でを始める〔伊豆山権現（神社）と箱根権現（神社）の二箇所に参拝する〕			
1261/-/-	弘長元年		日蓮が鎌倉幕府によって伊豆に配流される。伊東市蓮着寺近くの海岸。		
1555/-/-	天文24年				北條氏康により千貫樋が築かれる。（伊豆小浜池から駿河間　現：三島市～清水町間）
1558～1570	永禄年間		（南伊豆）「下賀茂温泉」がこの頃発見されたと伝えられている		
1590/-/-	天正18年	千利休が伊豆山　走り湯に宿泊			
1597/-/-	慶長2年	徳川家康が熱海に湯治のため来訪			
1598/-/-	慶長3年		（伊東）和田湯（いとうの湯）に浴場が作られる		
1604/3/3	慶長9年	徳川家康が熱海に湯治のため再来訪し7日間滞在（当代記）			
1604/7/15		徳川家康が熱海の湯を5桶、京都伏見まで運ばせる。吉川広家（吉川元春の子で毛利元就の孫）に病気療養の目的で贈るためだった。（大日本資料より）			
1605/-/-	慶長10年			◎（湯ヶ島）吉奈温泉「東府屋旅館」創業	
1616/-/-	元和2年		（下田）江戸幕府が船舶の監視のため今村正勝を下田奉行に任命。須崎に遠見番所が設けられる。		
1623/-/-	元和9年		（下田）江戸幕府が船舶の監視のため設けた須崎の遠見番所を大浦に移す。後に御番所となり、江戸往来の船舶は立ち寄りが義務付けられ、検問を必ず受けた。		
1624～1645	寛永年間	三代将軍徳川家光が熱海に御殿を建てさせる。（現在の市役所付近は御殿地と呼ばれる）			
1633/1/21	寛永10年	寛永小田原地震が発生。熱海で津波発生。			
1640/-/-	寛永17年	薩摩藩二代目藩主　島津光久が熱海で湯治（今井半太夫の宿に滞在）			
1650/-/-	慶安3年		（伊東）和田湯（いとうの湯）が江戸城に運ばれた（文書記録あり）		
1659/3/8	万治2年	加賀藩主前田綱紀が熱海で湯治（今井半太夫の宿に滞在）			
1667/-/-	寛文7年	四代将軍徳川家綱が熱海大湯の温泉を檜の樽に詰めて江戸まで運ばせる（御汲湯の始まり）			

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1671/8/-	寛文11年	（湯河原）「源泉　上野屋」に水戸光圀が湯治に立ち寄ったと言われている			
1671/-/-		薩摩藩二代目藩主　島津光久が熱海で2回目の湯治（今井半太夫の宿に滞在）			
1673～1680	延宝年間			（土肥）土肥で金の採掘中に温泉涌出	
1681/11/-	天和元年	「豆州熱海絵図」が発行される（菱川吉兵衛師宣の画）湯宿は27軒と記される。			
1699/-/-	元禄12年	常陸の額田藩主松平頼貞が熱海で湯治。（今井半太夫の宿に滞在）			
1708/-/-	宝永5年	中山高陽が日金山に登り、熱海を描き「熱海紀行」を記す			
1726/10/9	享保11年	八代将軍徳川吉宗の御用汲湯として熱海の湯が江戸まで船で運ばれる			
1744/-/-	延享元年			（湯ヶ島）板垣勘四郎安部郡有東木（現在の静岡市有東木）から「わさび」を湯ヶ島に持ち帰り、苦労して育て、広めていった。（天城湯ヶ島のわさびの始まり）	
1775/4/-	安永4年			◎（修善寺）「あさば」開業	
1783/8/-	天明3年	饅頭屋塩瀬の当主、林諸鳥が熱海村の渡辺房村長に依頼し十国峠山頂に記念碑を建立。			
1783/-/-					（沼津）幕臣の木村喜繁が「伊豆紀行」を記す。（内浦長浜の津元（網本）大川四郎左衛門宅に泊まり、長浜で行われたマグロ漁を文章と絵で記録）
1801/4/26	享和元年	伊能忠敬が第2次測量で、伊豆の海岸を測量。熱海～伊東～下田～松崎～西伊豆～戸田～三津～沼津～三島の行程（5/30まで）			
1801/-/-		◎中田屋　開業			
1803/3/3	享和3年				伊能忠敬が第4次測量で、伊豆三島から白須賀の海岸を測量（3/27まで）
1805/3/1	文化2年				伊能忠敬が第5次測量で、東海道三島宿から新居の街道を測量（3/28まで）
1806/-/-	文化3年	◎古屋旅館　創業			
1815/5/2	文化12年	伊能忠敬は参加しなかったが測量隊が第9次測量で、伊豆の海岸を測量。三島～韮山～修善寺～湯ヶ島～下田～伊豆七島に渡る。10月から再び伊豆に戻り、下田～河津～稲取～伊東～冷川～修善寺～伊東～熱海～三島の行程（翌年1/27まで）			
1832/-/-	天保3年	十返舎一九が伊豆紀行「金の草鞋」を出版			
1833/-/-	天保4年	葛飾北斎が「日金山眺望絵巻」を描く（長野県北斎記念館所蔵）			
1834/-/-	天保5年	歌川広重が「豆州熱海湯治之図」を刊行			
1842/-/-	天保13年			（韮山）代官　江川太郎左衛門坦庵が韮山の屋敷にて乾パンを製造（部下である柏木総蔵（後に忠俊　足柄県令）に命じてパン作りを学ばせた）《日本で始めてパンを製造した》	
1849/-/-	嘉永2年	◎（熱海伊豆山）「蓬莱」創業			
1853/-/-	嘉永6年			（修善寺）初代歌川広重が「伊豆修善寺湯治場」を「六十余州名所図絵」の1枚として描く	

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1857/10/-	安政4年		アメリカの駐日総領事タウンゼント・ハリスが13代将軍徳川家定に謁見するため6泊7日の行程で江戸に向け出発（下田～河津～三島～箱根～小田原～江戸）		
1857/-/-				（韮山）「韮山反射炉」が完成〔江川太郎左衛門〕	
1860/-/-	万延元年	初代英国大使オールコック、富士登山の帰途、熱海で入浴			
1868/1/-	慶応4年 明治元年			◎（修善寺）菊屋（現・湯回廊　菊屋）　開業	
1868/6/29				韮山県を設置（伊豆半島※熱海も含まれる）。江川英武（韮山で先祖代々代官の家系）が韮山県管轄を命じられる。	
1868/10/7					（三島）明治天皇が江戸へ行幸の際、三島の樋口伝左衛門（旧本陣）を行在所と定め、茶室不二亭をご利用された
1868/-/-					（三島）「世古本陣」が火災で焼失
1869/-/-	明治2年				（三島）世古本陣を営業していた世古六太夫が近代的総2階建てホテルを開業
1870/-/-	明治3年		（下田）下田沖に神子元島灯台　竣工		
1871/11/14	明治4年			韮山県が旧小田原藩・旧荻野山中藩と合併し、足柄県に編入となる	
1871/-/-			（南伊豆）「石廊崎灯台」完成（初代）		
1872/2/-	明治5年	熱海は足柄県第43区となる			
1872/4/16				太政官が足柄県を廃止、伊豆国を静岡県に合併すると布告。	
1872/5/-				◎（修善寺）「養気館新井」（現・新井旅館）開業	
1872/-/-		◎菓子舗　間瀬本店が開業			
1872/-/-				◎（湯ヶ島）湯本館　開業（後に川端康成が伊豆の踊り子を執筆）〔安藤藤右衛門〕	
1873/3/-	明治6年			◎（土肥）牧水荘　「土肥館」　開業	
1873/-/-			◎（河津）谷津温泉に「離れ家　石田家」創業		
1874/-/-	明治7年		◎（湯ヶ島）湯ヶ島の足立三敏が「眠雲楼」（現・落合楼村上）開業		
1875/3/18	明治8年	世古六太夫（直道）たち3名から、今井半太夫営業の客舎を修繕し、温泉旅館眞誠社を営業する願いが出され創業する			
1876/8/3	明治9年				（沼津）狩野川に木造の湊橋が架けられる。（御成橋の前身）
1877/8/24	明治10年	大隈重信が富士屋旅館に宿泊			
1877/-/-		この頃、熱海芸能組合　設立			
1878/1/-	明治11年	大久保利通が熱海に1週間ほど宿泊（大湯の傍の眞誠社帰りは三菱の岩崎彌之助が汽船を出して東京に戻った）			
1878/4/6		熱海の1ヶ月平均宿泊人員が2万人と報道（朝野新聞）			
1879/12/26		ドイツ人ベルツが熱海から箱根へ来訪。東京医学校　内科医学正教授として来日、近代医学を導入、各地の温泉療養の開発に熱心だった。			

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1879/12/-	明治12年	伊藤博文が富士屋旅館に1/22まで滞在			
1879/12/-		坪内逍遥が兄の看病のため熱海に滞在			
1880/2/-	明治13年	松方正義（当時大倉卿）が熱海に来浴。以降、「水明荘」という別荘を持つ。			
1880/9/-				（松崎）「岩科学校」竣工（現在、国指定重要文化財岩科学校として営業している）	
1880/11/20		熱海～小田原間の県道（熱海新道）仮開業式が挙行される			
1881/1/13	明治14年	伊藤博文、井上馨、大隈重信、山縣有朋、黒田清隆などの参議、五代友厚などが富士屋旅館で会談（民権運動に対処するためなどの目的で熱海にて会談した）			
1881/-/-		熱海～丹那～三島までの車馬道を開削するための発議がされる（富士屋喜右衛門、古屋市郎左衛門、相模屋要作たち熱海の旅館経営者による）			
1881/-/-		熱海～小田原間の県道（熱海新道）が開通する			
1882/8/-	明治15年	◎樋口旅館が開業（熱海で初の洋風式ホテル　甲州出身の樋口忠助氏経営）			
1882/-/-				（湯ヶ島）「眠雲楼」が「落合楼」に改称（宿泊した山岡鉄舟の提案）	
1882/-/-		◎（湯河原）「ゆ宿　藤田屋」開業			
1882/-/-		熱海～丹那～三島までの車馬道が開削される			
1883/2/6	明治16年	後藤新平が大湯前の鈴木屋に宿泊、相模屋にて療養中の岩倉具視に会い、箱根離宮建設の相談を受ける。			
1883/4/-			豆海汽船㈱が松崎の依田左二平により設立。豆海丸が東京・横浜～下田～沼津間に運航開始		
1883/7/5		岩崎弥太郎が熱海の御殿跡温泉地（後の御用邸　現・市役所付近）を宮内省に献納し、東京本郷の代替地を賜う。（朝野新聞）			
1885/3/-	明治18年	熱海に宮内省管轄の「噏気館」が開館。胸部疾患療養のため蒸気を吸いこむ吸入装置などがあった。			
1885/-/-				（松崎）大沢温泉が開業	
1887/3/27	明治20年				静岡県下で初めての鉄道が沼津港・蛇松～沼津停車場間に敷設される。（官設蛇松線）（東海道を建設するための建設資材を輸送するために作られた）
1887/10/-		（熱海）山本長五郎（清水次郎長）が富士屋に宿泊			
1887/-/-				松崎の依田善六が小汽船「松崎丸」を、下田～松崎～沼津間に就航	
1887/-/-		（熱海）伊藤博文が井上毅たちとともに樋口旅館に滞在			
1887/-/-					◎（沼津三津）「安田屋旅館」開業
1888/4/-	明治21年	◎熱海梅園が横浜の豪商「茂木惣兵衛」により開園。当初は3000本の梅を植樹。			
1888/9/30		雨宮敬次郎らにより、豆相人車鉄道会社設立（小田原～熱海間）			
1888/-/-		◎（湯河原）伊藤屋　開業			

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1888/-/-	明治21年			(修善寺)政治家の副島種臣が菊屋に滞在。修禅寺の寺号額を揮毫。	
1888/-/-					◎(沼津)牛臥に「三島館」開業(沼津御用邸に来た政府高官が多く利用)
1888/-/-		熱海御用邸　完成(現在の市役所)			
1889/1/1	明治22年	東京～熱海間　電話回線　開通(噏気館～東京木挽町の東京電信局間に我が国最初の公衆用の市街通話が行なわれる			
1889/1/-		尾崎紅葉が小田原から歩いて熱海に来訪。相模屋で昼食、小林屋旅館に宿泊。同行者は石橋思案、巌谷小波(当時は帝国大学法科1年)			
1889/2/1					東海道本線　国府津～静岡間(御殿場ルート)　延伸開業(この時は現在の東海道本線は現在の熱海経由ではなく、御殿場経由。伊豆への玄関口は神奈川県側が国府津、静岡県側は沼津だった)
1889/2/11		大日本帝国憲法発布の報道が全国で熱海だけ電話で通報される			
1889/3/1		熱海村が、伊豆山村、泉村、初島村を合併して、熱海村となる。			
1889/4/-			◎(伊東)暖香園(現ホテル暖香園)　開業		
1889/7/1					東海道線　東京(新橋)～神戸間が開通
1889/11/-			豆海汽船㈱が統合され、東京湾汽船㈱となり、東京～下田間の営業開始(最初は5日で1便だった)		
1889/-/-					軽井沢～平井～三島間に馬車が開業〔開盛軒〕
1890/7/14	明治23年	熱海～小田原間に汽船復活(国民新聞)			
1890/-/-					(沼津)二代目の湊橋が開通(木橋)
1890/-/-					(三島)「楽寿園」が小松宮彰仁親王の別邸として造営される
1891/4/-	明治24年	噏気館が宮内省から熱海の温泉業者一同に払い下げられる			
1891/4/-					(沼津)「桃中軒」が創業(沼津駅構内)
1891/6/11		熱海村が熱海町となる		戸田の汽船「伊豆浦丸」が沼津～下田間に就航、「松崎丸」との競争が激化	
1891/-/-					
1892/-/-	明治25年	◎新角玉旅館(角玉旅館より分家し、新角旅館⇒新かど旅館⇒新かどやに名称変更)　開業			
1892/-/-				(修善寺)正岡子規が修善寺に来訪	
1892/-/-		◎「樋口ホテル」開業			
1893/3/-	明治26年	徳富蘇峰が随筆「熱海だより」を国民新聞に執筆			
1893/4/-				幸田露伴が中伊豆から奥伊豆に来遊	
1893/5/10					小山田信蔵などが中心となって「豆相鉄道㈱」が発起される。
1893/7/23					(沼津)沼津御用邸が完成し、皇太子(大正天皇)が御行啓(～8/20)
1893/9/30					「豆相鉄道株式会社」が社名を「豆相電気鉄道株式会社」に変更され創立総会が開かれる
1894/4/8					「豆相電気鉄道株式会社」が総会で社名を「豆相鉄道株式会社」に改称。

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1894/7/29	明治27年			（大仁）沼津御用邸に滞在していた皇太子（後の大正天皇）が大仁　水晶山の北東裾の狩野川端で鵜飼を見学。	
1894/10/4				（湯ヶ島）「嵯峨沢」で温泉の掘削に着手	
1894/-/-			東京湾汽船㈱が、東京～下田間の営業を毎日運航		
1895/3/10	明治28年			（湯ヶ島）「嵯峨沢」で温泉が涌出、湯槽3箇で開業	
1895/7/13		熱海～吉浜間10.5kmに「豆相人車鉄道」 開通			
1895/10/20		熱海水力発電所　送電開始（日本で8番目となる）			
1895/-/-					（沼津）千本にて世古六太夫が高級旅館「三島館」を経営
1895/-/-					（沼津）二代目の湊橋の橋脚を煉瓦に改築
1896/3/12	明治29年	吉浜～小田原間14.5kmに「豆相人車鉄道」開業し熱海から小田原間25kmがつながる（軌道610mm　8人乗り客車を人が押していた　小田原～熱海間を約3時間40分かかった）			
1896/3/-					＊三島の高田譲八郎、贄川直一郎らが発起人となり、沼津～三島間に馬車鉄道敷設を内務大臣に提出するも翌月取り下げ。（馬車鉄道が時代遅れだった）
1896/5/3					駿豆電気株式会社が創立（子会社が駿豆電気鉄道で後に静岡県初の電車を沼津～三島間に走らせた）
1896/5/23					豆相鉄道㈱が三島～南条～大仁間の軽便鉄道敷設申請が免許される
1896/7/25					豆相鉄道㈱が三島～南条～大仁間の軽便鉄道敷設工事に着手
1896/8/6					＊三島の島田与平、沼上繁太郎、鈴木東海夫らが発起人となり、豆駿電燈会社を創立。これを母体とする電鉄会社と計画するも箱根西坂山田村付近の住民が反対したため計画が頓挫（佐野（今の裾野）～三島～沼津～下田間に電気鉄道敷設を目指していた）
1896/-/-					（伊豆長岡～沼津三津）三津坂隧道が完成
1897/-/-	明治30年	読売新聞に尾崎紅葉の「金色夜叉」が連載開始。（1902年まで）			
1898/5/20	明治31年				「豆相鉄道」が三島町（現・三島田町）～南条（現・伊豆長岡）間（約9.4km）営業開始。大場、原木、北条各駅も営業開始《静岡県初の民営蒸気鉄道となる》
1898/6/15					「豆相鉄道」が三島町～三島間（約2.5km）営業開始、東海道線三島（現・JR御殿場線下土狩駅）駅と連絡し三島～南条間で営業。
1898/9/-		中国の革命家　康有為が大隈重信のすすめで日本に滞在、熱海を訪れる			
1899/7/17	明治32年				南条駅（現・伊豆長岡駅）～大仁駅間が開通（約5.3km）。三島～大仁間（約17.1km）を約40分で運転〔豆相鉄道〕
1900/6/20	明治33年	豆相人車鉄道が小田原町内を0.6km延長し小田原電気鉄道との乗継が便利になる（現在の国道1号線早川口交差点近く）			
1901/8/26	明治34年			（湯ヶ島）天城トンネルの開通式が行なわれる	

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1902/1/-	明治35年	小説家　泉鏡花が紀行文「熱海の春」を発表			
1903/1/-	明治36年			◎（伊豆長岡）「ホテル三楽荘さかや」開業	
1904/1/30	明治37年		＊賀茂郡の有力者、矢田部強一郎、山本吾平、鈴木寛吉、清田賢治郎、田中鶴松、鈴木吉兵衛ら16名が100年後に伊豆循環鉄道の建設を実現すべく「鉄道期成賀茂郡同盟会」を結成。（伊豆半島を一周する鉄道をめざす）		
1904/11/-			◎（南伊豆下賀茂）「河内屋」（現・ホテル河内屋）開業		
1904/-/-				（土肥）前年の1903年、天皇に献上された土肥のビワが農商務省園芸試験場技手　田村利親により「土肥の白ビワ」と命名。	
1904/-/-				（土肥）勝呂宗平、朝香平十郎、朝香安蔵の3人が土肥村馬場に共同で温泉ボーリングし温泉湧出に成功。勝呂宗平は明治館、朝香安蔵は朝香屋（後に朝野屋）を開業する	
1905/-/-	明治38年				＊駿豆電気㈱が第10期定時株主総会の席上、9路線の鉄道事業進出計画を発表。三島～沼津線と三島市内線は後に実現するも他の7路線は実現せず。
1906/1/5	明治39年				（沼津）作家　森鴎外が沼津御用邸に皇太子を迎えに赴き、皇后にも謁見。
1906/1/26		熱海御用邸を拡張する			
1906/10/1					「駿豆電気㈱」が「駿豆電気鉄道㈱」に社名に変更（前年の鉄道事業進出による）
1906/11/28					「駿豆電気鉄道」　六反田（現・三島広小路）～沼津駅前間営業開始。（静岡県初の電車を開通）
1906/-/-				（湯ヶ島）安藤藤右衛門が独力で浄蓮の滝への降下道を開く	
1906/-/-		伊藤博文が樋口旅館に宿泊			
1907/1/-	明治40年			（伊豆長岡）渡邊安左衛門が温泉を見つける（伊豆長岡一号の湯）	
1907/1/-				◎（伊豆長岡）「共栄館（現：いづみ荘）」開業	
1907/3/-		伊豆山　相模屋旅館に千人風呂ができる			
1907/7/18					三島～大仁間を営業していた「豆相鉄道会社」解散、翌日7/19に新会社の「伊豆鉄道会社」が譲受。
1907/12/24		豆相人車鉄道が熱海鉄道になり小田原～熱海間で蒸気機関車を使用した軽便鉄道に変更（人車鉄道の3時間40分から2時間30分にスピードアップ）			
1907/-/-				◎（伊豆長岡）「南山荘」 創業	
1908/-/-	明治41年		（熱川）木村弥吉が温泉宿「福田屋」開業（熱川温泉の始まり。温泉は室町時代からあったと言われる）		
1908/3/-			◎（東伊豆熱川）「（現・カターラ福島屋）」開業		
1908/8/2					◎（沼津）千本浜公園が開園
1908/8/3					駿豆電気鉄道が三島町（現・三島田町）～六反田（現・三島広小路）間営業開始。伊豆鉄道とつながる。（静岡県初の電車。6/3の説（三島市史下巻）もあり）
1908/11/6		⇒熱海鉄道が、大日本軌道（雨宮敬次郎が設立）に買収され、大日本軌道小田原支社管轄となる。事務所が熱海から小田原に移転。			

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1908/-/-				(土肥)野毛新兵衛が土肥村御殿にて温泉湧出に成功。共同湯「御殿湯」を開業。近くに「土肥館」を開業	
1908/-/-				(下田～松崎)婆娑羅隧道が完成	
1908/-/-				(修善寺)岡本綺堂が修善寺 新井旅館に滞在、「修善寺物語」を執筆。	
1909/2/21	明治42年			作家の田山花袋、島崎藤村などが5泊6日で伊豆に来遊。豆相鉄道で三島～大仁～修善寺、湯ヶ島～下田～伊東の行程。	
1909/4/3				(韮山)奈古谷温泉が涌出	
1909/-/-		熱海～伊東間の県道工事が始まる			
1909/-/-				駿河湾汽船㈱が松崎町に設立。、松崎～沼津間に「松丸」を就航させる	
1910/4/10	明治43年			伊豆長岡温泉の開湯式が行なわれる(伊豆長岡にある古奈温泉は約1300年前に開湯と言われているが、伊豆長岡温泉は明治時代だった)	
1910/8/2				(韮山)奈古谷温泉が使用許可となる	
1910/9/-				◎(伊豆長岡)山田屋旅館 開業	
1910/-/-			◎(伊東)陽気館 開業		
1910/-/-		(熱海)観魚洞隧道が完成			
1911/1/1	明治44年	学習院の院長、乃木希典(元陸軍大将)が熱海滞在中の三殿下(後の昭和天皇・秩父宮・高松宮)に年頭の挨拶のため修善寺から来訪。来宮神社の忠魂碑にも参拝、忠魂碑の揮毫は乃木希典による。三殿下は熱海御用邸に滞在。食事は樋口旅館が担当。			
1911/-/-					三島の「楽寿園」が韓国王世子李垠(イ・ウン)の別邸となり、「昌徳宮」と呼ばれるようになる
1912/4/1	明治45年 大正元年				「駿豆電気鉄道会社」が「伊豆鉄道会社」(三島(現・三島田町駅)～大仁間)の事業を買収。
1912/7/28					(沼津)湊橋が鉄の橋に改修され、8/1に「御成橋」に改称(高欄と橋脚は前のものを利用)
1912/8/22					(三島)貸し自動車の「東海自働車倶楽部」が開業(津田守三氏が発起人)
1912/9/-		熱海町民が神奈川県への管轄変更を求め内務省、貴族院・衆議院、静岡県・神奈川県へ請願陳情をするが現状の静岡県で落ち着く。			
1913/1/-	大正2年			◎(伊豆長岡)井川館 開業	
1913/8/-		中国の革命家、黄興、孫文が日本に亡命、熱海の樋口ホテルに滞在			
1913/-/-			冷川峠越えの伊東街道が開通		
1914/1/5	大正3年			駿河湾汽船㈱の「愛鷹丸(木造・55トン)」が戸田村沖で沈没。死者行方不明者116名	
1914/1/-			◎(伊東)いづみ荘 開業		
1914/4/5				▲駿河湾汽船㈱が愛鷹丸沈没などにより解散	
1914/-/-			◎(東伊豆熱川)「玉翠舘」 開業		

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1914/-/-			（下田）4人乗りのハイヤーが運転開始。有志で共同出資。（下田～大仁間を1日1往復した　これが発展して1916年に下田自動車㈱になる）		
1915/3/-	大正4年			（韮山）寺家の北条時政墓近くの畑から温泉が湧出	
1916/2/20	大正5年		下田自動車㈱設立。3/23から下田～大仁間をバス運行開始		
1916/8/4		国による小田原～熱海間の熱海線　工事着工			
1916/10/7					「駿豆電気鉄道会社」が「富士水力電気会社」に合併。三島六反田～沼津間の電車が「富士水力電気会社」の鉄道部になる。
1916/12/7					「駿豆鉄道株式会社」設立。（現・伊豆箱根鉄道㈱）
1916/-/-				◎（伊豆長岡）「柳月」 開業（和菓子店　まんじゅう等）	
1917/2/15	大正6年		伊東市に伊東自動車㈱が設立（現・東海自動車の前身）		
1917/4/-			大仁～伊東・大仁～修善寺間のバス運行開始〔伊東自動車㈱〕		
1917/7/5			伊東～宇佐美間のバス運行開始〔伊東自動車㈱〕		
1917/7/-		熱海営業所が開設。小田原～熱海間26kmで営業開始。〔富士屋自働車〕			
1917/11/5					「駿豆鉄道㈱」が「富士水力電気㈱」から、三島（現・三島田町）～大仁間の蒸気鉄道の営業権と資産を譲渡、「富士水力電気㈱」から三島六反田～沼津間の電気鉄道を譲渡され新発足。資本金30万円、従業員144名
1917/11/6				伊東自動車㈱が横瀬～吉奈間・吉奈口～湯ヶ島間のバス運行開始	
1918/3/-	大正7年				昭和天皇が摂政宮（後の昭和天皇）が、沼津御用邸裏の海岸で「ショウジョウエビ」を新種発見される。昭和天皇にちなんでシンパシファエア・インペリアリスSympasiphaea imperialisとよばれていたが、近年の研究によってインド洋産のシンパシファエア・アンネクテンスS. annectensとともに大西洋産と同一種とされ、Glyphus marsupialisの学名となった。
1918/4/1		丹那トンネルの工事に着手する			
1918/初夏		日本観光㈱設立（社長：小野金六、専務：岸衛（後に熱海市長）、取締役：堀内良平（富士急行創業者）、岡田正平、小林力弥、樋口忠助（樋口ホテル創業者）、関本英作全員が山梨出身者や関係者）「熱海ホテル」「精進湖ホテル」を経営するためだった。後に「精進湖ホテル」は㈱精養軒に経営権が移る			
1918/8/10					三島町駅（現・三島田町駅）～大場駅間の電化工事が完成（600ボルト）〔駿豆鉄道㈱〕
1918/8/14					電車と蒸気機関車の併用運転を開始（三島町～大場は電車、大場～大仁間は蒸気機関車、大場で乗り換えた）
1918/9/1					「伊東自動車㈱」が三島～沼津間で乗合バスによる郵便を開始
1918/9/18			「南豆馬車鉄道」設立。（蓮台寺～武ヶ浜間）		
1918/10/-				川端康成が初めて伊豆に旅行で訪れる	
1918/11/24			「伊東自動車㈱」が「東海自動車㈱」に商号変更		

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1918/11/26					沼津駅構内を起点とする山崎精作経営の自動車業を買収〔東海自動車㈱〕
1918/-/-					（沼津）「安田屋旅館」が現在の三津浜に移る
1918/-/-				（土肥）歌人　若山牧水が土肥温泉に来遊。以後、数回来遊する（明治館や土肥館）	
1919/5/25	大正8年				三島駅（現・下土狩）～三島広小路駅間・大場～大仁駅間が電化完成し、全線が電化となる。南条駅が伊豆長岡駅に改称〔駿豆鉄道〕
1919/8/-		金色夜叉の記念碑建立（尾崎紅葉の弟子・小栗風葉）羽衣の松がお宮の松と呼ばれるようになる（初代お宮の松）			
1919/10/4				山下金次郎経営の自動車業（車両2両、大仁営業所車庫1棟）を買収	
1919/-/-		海運王と呼ばれた内田信也が熱海に別荘を建てる（後に根津嘉一郎別荘）			
1919/-/-				（中伊豆）大井上康が田方郡中伊豆町上白岩に大井上理農学研究所を設立（大粒の葡萄を研究し1944年、巨峰を作り出すことに成功　巨峰のふるさと由来）	
1919/-/-					「駿豆鉄道」が全線電化となる。
1920/5/14	大正9年				駿豆鉄道㈱が伊豆長岡～三津浜間約5.8キロの鉄道敷設の免許を得るも実現に至らず。
1920/5/-		日本近代文学の父とも言われた坪口逍遥が熱海　水口町の「双柿舎」に移住。1935年（昭和10年）2月まで住んだ。			
1920/7/-					（沼津）沼津営業所を新築〔東海自動車㈱〕
1920/8/-					（沼津）歌人の若山牧水が沼津に移住、1928年（昭和3年）の晩年まで9年間を暮らす
1920/9/20				（長岡）「長岡自動車㈱」が設立（代表　杉山貢、取締役杉山唯平・山下甚平・岩浪清平・大和宇平、監査　池田春吉・杉山盈）その後合併などを進め昭和タクシーと改称（伊豆長岡自動車⇒ツバメ自動車⇒現在の伊豆箱根タクシー）	
1920/10/21		東海道本線　国府津～小田原間が開業し、小田原駅開業。熱海利用者は国府津から小田原が玄関口になる。			
1920/-/-		⇒熱海線国府津～小田原間の開通に伴い、大日本軌道は鉄道の権利を国に売却、新設された熱海軌道組合の管轄路線となる			
1920/-/-					三島（三島市伝馬町）～対島村八幡野（現在の伊東市）間の道路を田方郡道路と認定
1920/-/-		▲噏気館が焼失。			
1921/1/-	大正10年	与謝野晶子が初島を来訪（「初島紀行」を書く）			
1921/7/1					伊豆仁田駅が新築開業〔駿豆鉄道〕
1921/7/6					大仁～修善寺間の鉄道敷設が免許される〔駿豆鉄道〕
1921/7/15				「東海自動車㈱」が大仁～修善寺間の路線を持つ「駿豆自動車㈱」を合併	
1922/2/26					「東海自動車㈱」が沼津～三島間と沼津～三津間の路線を持つ「旭自動車運輸㈱」を合併
1922/3/8				（伊豆の国市）「韮山反射炉」が国指定史跡になる（江戸時代末期に作られた）	

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1922/3/25	大正11年				沼津～江ノ浦間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1922/4/11		「改正鉄道敷設法」が公布され、熱海～下田～松崎～大仁間が予定の鉄道線となる（東伊豆～南伊豆～西伊豆～駿豆鉄道大仁駅で伊豆半島を一周の計画）			
1922/7/30					沼津～三島間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1922/7/31					大仁～修善寺間の鉄道敷設工事着工〔駿豆鉄道〕
1922/7/-				◎（修善寺）○久旅館（現・瑞の里 ○久旅館） 開業	
1922/11/3		◎伊豆山に「熱海ホテル」新築開業〔日本観光㈱〕			
1922/11/-			〔東京湾汽船〕が清水～下田間の航路を運航開始		
1922/12/21		「国鉄熱海線」（現・東海道本線）が国府津～真鶴 延伸（真鶴駅が開業）			
1922/-/-				西豆～土肥間のバス運行開始〔土肥の勝呂宗平〕	
1922/-/-				◎（函南畑毛）「榮家旅館」開業（現・大仙家）	
1923/1/27	大正12年				江ノ浦～三津間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1923/3/5			（伊東）詩人の室生犀星が伊東暖香園に3/17まで滞在（疾病療養と執筆のため）		
1923/3/20		熱海～網代間の乗合自動車営業開始〔富士屋自働車〕			
1923/3/29		熱海ホテルで後藤新平とソ連極東全権代表ヨッフェにより日ソ会談が行なわれる。4/24も第二次会談が開催			
1923/9/1		▲関東大震災発生で、熱海では12m、網代や伊東では8mの津波により甚大な被害。熱海軌道組合線（熱海鉄道）が運行休止（後に廃止）			
1923/9/1					▲関東大震災発生で、多大な被害を受けるも9/3には全線開通させる〔駿豆鉄道〕
1923/11/-					箱根町～三島の国道が開通
1923/12/21					三島～山中間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1923/12/-				◎（伊豆長岡）「ゆもとや」開業	
1923/12/-					「駿豆鉄道」（現・伊豆箱根鉄道）が、箱根土地(株)傘下となる。（西武グループになる）
1924/3/18	大正13年	三島～熱海間の乗合自動車営業開始〔富士屋自働車〕			
1924/5/27					山中～元箱根間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1924/7/1				（伊豆長岡）伊豆競馬倶楽部が発足。長岡競馬場を開設	
1924/7/28			伊東～川奈口間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1924/8/1					大仁～修善寺間が開通し、三島（現・下土狩）～修善寺間に鉄道が全通。（現・伊豆箱根鉄道駿豆線の礎が完成する）〔駿豆鉄道〕
1924/8/8				修善寺～横瀬間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1924/10/1		「国鉄熱海線」(現・東海道本線)が真鶴～湯河原 延伸(湯河原駅が開業)			
1924/10/8					三津～古宇間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車(株)〕
1924/11/12				修善寺駅前に営業所新築〔東海自動車(株)〕	
1924/-/-					駿豆鉄道の経営権をめぐって社長の白井竜太郎と藤田謙一(堤康次郎側)の間で対立、大化会会長岩田富美雄がピストルで堤康次郎を脅すも屈せず。(ピストル堤の由来)
1924/-/-		大湯の間欠泉が止まる			
1925/1/28	大正14年			(土肥)アララギ派の歌人 島木赤彦が土肥に来遊。(土肥館や明治館)	
1925/3/25		湯河原～熱海の国鉄熱海線が開通し、東京とつながる。熱海出発6:20A.M.に東京行き1番列車がスタート 熱海駅開業〔鉄道省〕			
1925/3/25		熱海峠～伊東間の街道が開通			
1925/3/-		熱海営業所を開設〔東海自動車(株)〕			
1925/4/10				大仁～三島間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車(株)〕	
1925/4/10				(修善寺)小説家 芥川龍之介が新井旅館で静養のため5/6まで滞在。「温泉だより」を執筆。	
1925/5/1		熱海～伊東間の航路運航開始〔東京湾汽船〕			
1925/9/21		宇佐美～熱海間のバス運行開始〔東海自動車(株)〕			
1925/11/4					馬場～牛臥間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車(株)〕
1925/-/-		⇒根津嘉一郎が内田信也別邸を購入			
1925/-/-		桃山・田原に別荘分譲地販売開始(東京の竹内同族会社 この別荘案内地図が観光社から「熱海温泉理想郷桃山案内」として発行される)			
1925/-/-		◎中田屋(現・うみのホテル中田屋) 開業			
1925/-/-		◎大月館(後の大月ホテル) 開業			
1925/-/-		熱海峠～箱根峠間の自動車専用道路を申請、昭和5年まで許可が下りなかった〔駿豆鉄道〕			
1925/-/-				◎(伊豆長岡)(現・すみよし館)開業	
1926/1/15	大正15年 昭和元年	(湯河原)芥川龍之介が湯河原温泉の「中西屋」に滞在(2/19まで)			
1926/1/-				川端康成が「伊豆の踊り子」を発表(文芸時代)	
1926/3/30					沼津、三島地区でハイヤー営業を開始〔東海自動車(株)〕
1926/11/22			(河津)峰温泉大噴湯が誕生する		
1926/12/30			(熱海)歌人・医師の斉藤茂吉が伊東に来訪。		
1926/12/31				梶井基次郎が湯ヶ島に転地療養(落合楼～湯川屋1927年5月まで滞在)	
1926/-/-					(沼津)「沼津軒」創業

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1927/2/-	昭和2年		◎（南伊豆下賀茂）「加納の宿　かぎや」 開業		
1927/2/-			◎（河津峰）「菊水館」開業		
1927/4/22				出口～船原間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	
1927/9/-		（熱海）歌人・医師の斉藤茂吉が熱海に来訪。十国峠に登る			
1927/10/1			（下田）玉泉寺でハリス記念碑の除幕式が行われる		
1927/10/-		中国の蒋介石が北伐を中止し来日、箱根で田中義一首相と会談、熱海ホテルにも来訪			
1927/12/1		◎熱海万平ホテル　開業（伊豆山桃山）〔万平ホテル〕			
1927/12/-		川端康成が熱海　小沢の鳥尾子爵別荘に移り、1928年（昭和3年）春まで住む			
1927/-/-					⇒三島の「楽寿園」が伊豆出身の資産家・緒明圭造へ売却される。
1928/1/-	昭和3年			◎（湯ヶ島）「嵯峨沢館」 開業	
1928/1/-			（下田）昭和自動車　設立（後の伊豆下田バス⇒現・南伊豆東海バスの一部）		
1928/2/25		小田原～熱海の熱海線が電化（所要時間28分）〔鉄道省〕			
1928/3/14			川奈口～梅ノ木平間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1928/4/28					三島（現・JR御殿場線下土狩駅）～三島田町間に三島六反田駅（現・三島広小路駅）営業開始。（現在の三島広小路～修善寺間の営業になる）島津軌道線六反田駅廃止し三島六反田駅に接続。
1928/5/14				三津～田京間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	
1928/6/15			◎（伊東）川奈ゴルフコース　開業（現・川奈ホテル　ゴルフコース大島コースの18h6,040ヤード大谷光明氏設計）〔帝国ホテル会長の大倉喜七郎氏〕		
1928/6/20			大倉組の傘下に入る〔東海自動車㈱〕		
1928/7/10				修善寺～三津間のバス運行開始〔東海自動車㈱〕	
1928/12/24				三福～田原野間のバス路線を持つ藤原亀良経営の自動車業を買収〔東海自動車㈱が〕	
1928/12/28				駿豆鉄道が「長岡自動車」「古奈自動車」を合併。伊豆長岡～堋ノ上間、伊豆長岡～三津間の乗合自動車、貸切自動車営業を開始（伊豆箱根鉄道グループのバス事業スタート）	
1928/-/-			◎（伊東）「東海館」開業		
1929/1/20		熱海峠～長尾峠間の自動車道路新設許可を申請〔駿豆鉄道〕			
1929/3/4				船原～船原新田間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	
1929/3/5					相沢留吉の営業権（三島～松本～御園間）と車両1両を買収〔東海自動車㈱〕
1929/3/-			この頃、下田自動車が初めて女子車掌を採用する		
1929/4/24					松本～御園間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1929/5/4					沼津～裾野間の乗合自動車営業権を渡辺義男から買収〔東海自動車㈱〕

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1929/5/4	昭和4年				下石田～裾野間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1929/6/-		◎（湯河原）「青巒荘」 開業			
1929/11/17			東京～下田間の定期航空便を開始〔日本飛行学校事業部定期航空部門〕		
1929/11/29			伊東町大火により本社、伊東営業所、車両36両などを焼失する〔東海自動車㈱〕		
1929/12/6				修善寺駅にて貸切自動車営業を開始〔駿豆鉄道〕	
1929/-/-		「改正鉄道敷設法」のうち熱海～伊東間の着工が決定、測量が始まる			
1929/-/-			（伊東）東郷平八郎元帥の別荘が完成		
1929/-/-				（伊豆長岡）三菱の岩崎久彌（三代目）の別邸が伊豆古奈に建てられる。京都の庭師　小川治兵衛が日本庭園を手がける（現・三養荘）	
1930/1/-	昭和5年	与謝野晶子が伊東・熱海に来訪			
1930/2/28			伊豆で群発地震発生（3/6まで）		
1930/3/-					◎（三島）「三嶋大社宝物館」開館
1930/6/18			梅ノ木平～八幡野間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1930/7/-		熱海峠～箱根峠間の自動車専用道路9.9km、幅員6mで許可が下りる〔駿豆鉄道〕			
1930/8/22					江ノ浦～沼津間の乗合自動車営業を開始〔駿豆鉄道〕
1930/8/25			富戸口～富戸間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1930/10/-				（伊東）与謝野晶子が伊東に来訪（抛書荘）	
1930/11/12		十国自動車道路の工事を開始〔駿豆鉄道〕			
1930/11/26				北伊豆地震が発生。死者255人、負傷者741人家屋全壊2073戸の甚大な被害。工事中の丹那トンネルも被害を受ける	
1930/12/4			1929年に東京～下田間の定期航空便を開始した「日本飛行学校事業部定期航空部門」が「東京航空輸送社」に改称		
1930/-/-		◎金城館開業（17室）			
1930/-/-		八百半熱海支店　開業			
1930/-/-		口（熱海）「熱海ホテル」が山田馨設計のスペイン風洋館に建て替えられる			
1930/-/-					◎（沼津）「中之島水族館」開業（現/伊豆・三津シーパラダイス）
1930/-/-			（伊東）北原白秋が伊東市から依頼を受け、「伊東音頭」を作詞		
1931/1/11			駿豆鉄道から乗合自動車の路線問題に関しての損害賠償　第1回目の提訴あり（東海自動車の沼津～三島～修善寺間の乗合バス増便を駿豆鉄道が提訴した）〔東海自動車㈱〕		
1931/3/5			「東京航空輸送社」が東京～下田～清水間の定期航空のエアガール3名を公募し141名の応募があった中から3名を採用。話題になる（この事により、この日はスチュワーデスの日と言われている）		
1931/3/6		熱海と伊東を結ぶモノレール路線を申請。〔日本遊覧飛行鉄道〕			

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1931/3/29	昭和6年		「東京航空輸送社」が東京～下田～清水間の定期航空便（毎週月・水・金）を4/1から開始するための試乗会に小泉又次郎逓信大臣が試乗。		
1931/5/-		（熱海）歌人・医師の斉藤茂吉が熱海に来訪。			
1931/6/1		富士屋自働車、沼津～小田原、沼津～熱海の省線（鉄道省の管理下の鉄道線）との連帯運輸を開始			
1931/6/1			熱海～伊東26.3km、「下田自動車」が沼津～三島～修善寺～下田56.5kmの省線（鉄道省の管理下の鉄道線）との連帯運輸を開始〔東海自動車㈱〕		
1931/7/5			◎（下田）「ヒュッテ　クロフネ」開業（後に下田温泉ホテル）〔東海汽船〕		
1931/11/25					沼津永代橋～市場町間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1931/12/3			川奈口～川奈東間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1931/12/10		熱海御用邸が熱海町に払い下げ			
1931/12/24		熱海と伊東を結ぶモノレール路線申請を却下。（伊東線との競合や不況による資金調達の困難など）〔日本遊覧飛行鉄道〕			
1932/3/-	昭和7年	伊東線の工事に着手			
1932/4/-		◎（湯河原）山翠楼　開業			
1932/6/29				勝呂宗平の営業権（小下田～土肥～小土肥間、土肥～土肥峠間）とバス車両2両、小型自動車3両を買収〔東海自動車㈱〕	
1932/7/25					（沼津）「大瀬崎のビャクシン樹林」が国指定天然記念物になる
1932/7/31					（沼津）太宰治が沼津市志下の坂部啓次郎宅に滞在
1932/7/-		熱海芸能置屋連合組合　設立（置屋数40）			
1932/8/7		◎箱根峠～熱海峠間十国自動車専用道7/15完成、箱根～熱海間バス営業開始（熱海～箱根峠無線局間片道1円、箱根峠無線局～箱根町間片道25銭）〔駿豆鉄道〕			
1932/8/8			富戸～払間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1932/8/10		「箱根登山鉄道」が「富士屋自働車」へ自動車事業を譲渡。			
1932/8/20		☆「富士屋自働車」は、8月20日「富士箱根自動車」と改称。（競争激化による紛争のため阪急電鉄太田社長が合併を仲介した）大倉組・富士屋ホテル・箱根登山鉄道3社合同体制			
1932/9/26				船原新田～船原峠間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	
1932/9/26					古宇～江梨間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1932/10/18					古宇～江梨間の乗合自動車営業を開始〔東海自動車㈱〕
1932/10/18				湯ヶ島～持越間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	
1932/10/18			吉田～一碧湖間、一碧湖～萩間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1932/10/29		「熱海事件」起こる。日本共産党が伊豆山惜楽園にて会議を開催していたが、警視庁が検挙。			
1932/11/11			「東海自動車㈱」が「下田自動車㈱」（下田から中伊豆の路線バス）と合併して新しい東海自動車㈱になる		

西暦	年号	熱海･湯河原･真鶴	伊東～下田･南伊豆	西伊豆･中伊豆	沼津･三島周辺
1932/11/28			本社を下田町に移転する。東伊豆大川～下田～西伊豆松崎～土肥～修善寺～湯ヶ島～河津間の路線を継承。〔東海自動車㈱〕		
1932/11/28		十国峠に航空灯台が完成			
1932/12/21			片瀬～奈良本間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1932/12/21				安良里～宇久須間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	
1932/12/-		根津嘉一郎別邸洋館が完成（後の起雲閣）			
1932/-/-				「宇久須隧道」建設され（トンネルの中央天井に建設当時の斧が貼り付けたままになっている）、船原～仁科間の道路が開通する	
1932/-/-		◎魚見崎に緑風閣が開店（天ぷらなど）			
1932/-/-		◎岡本ホテル　開業（岡本正次郎）			
1932/-/-			片瀬温泉が発見される		
1932/-/-		◎山木旅館　開業			
1933/1/-	昭和8年	伊東線の工事で網代～宇佐美間の宇佐美トンネル掘削に着手（難工事で完成まで5年かかる）〔鉄道省〕			
1933/2/7				宇久須～小峰間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	
1933/4/4			奈良本～熱川間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1933/4/12			（下田）須崎に三井生物学研究所が完成（現在、須崎御用邸の場所）		
1933/4/19			伊東～新井間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1933/4/-		源実朝の歌碑が藤原銀次郎により十国峠に建立される			
1933/4/-			◎（下田）「蓮台寺荘」 開業		
1933/5/6					東京方面から普通列車に併結されて来た鉄道省の客車（湯の町号）が週末運行で修善寺まで乗入れる。ただし丹那トンネルができるまでは現･御殿場線下土狩駅が三島駅だったので、そこからの乗り入れだった。〔鉄道省〕
1933/6/19		丹那トンネルが貫通。水脈にあたりトンネル内に湧水で工事は難航。これにより函南側で渇水し、地元住民が反発〔鉄道省〕			
1933/6/24				修善寺温泉～公園口～藤ヶ平間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	
1933/-/-			伊東～下田間に「東海岸道路」が県道として開通。		
1933/7/17			八幡野～奈良本間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1933/7/18			伊東～下田間のバス運行開始〔東海自動車㈱〕		
1933/8/7		朝鮮人の女性飛行士　朴敬元が愛機「青燕号」で母国訪問の途中、熱海の玄岳山腹に墜落死する			
1933/8/10				（湯ヶ島）嵯峨沢に歌人･医師の斉藤茂吉が来訪	
1933/-/-			（河津）「今井浜温泉」が峰温泉から引き湯して営業開始		
1933/-/-			東京～大島～下田間に葵丸が就航〔東京湾汽船〕		

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1933/-/-			（南伊豆）2代目「石廊崎灯台」完成		
1933/-/-			（下田）東京文理科大学附属臨海実験所が設置。水族館も併設されたが1968年に閉鎖された（東京文理科大学⇒東京教育大学⇒筑波大学）		
1933/-/-		熱海カフェー組合　設立			
1934/1/19	昭和9年				貨物自動車の営業を開始〔駿豆鉄道〕
1934/1/22					（三島市）「山中城跡」が国指定史跡になる（後北条氏の支城　現国道1号線沿いにある）
1934/1/22				（伊豆長岡）南江間にある「地震動の擦痕」が国指定天然記念物になる（1930年発生の北伊豆地震によりできた）	
1934/2/26				韮山～口野間　乗合自動車営業を開始〔駿豆鉄道〕	
1934/3/19		伊東～初島～熱海間を遊覧船する「龍宮丸」（海底透視船）80トンが進水。片道運賃1円50銭。200名乗り。			
1934/4/20			下田で第1回「黒船まつり」が始まる。グルーアメリカ大使夫妻を招待		
1934/5/1					（三島市）「三嶋大社のキンモクセイ」が国指定天然記念物になる
1934/5/17				修善寺温泉～湯船口～北又間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	
1934/6/1			◎「日本運輸」による羽田～下田～清水間の夏期定期航空便（1日1往復）が開始。羽田から下田は10円。下田から清水は5円だった。		
1934/8/-					（三島）太宰治が三島広小路の友人の坂部武郎宅に約1ヶ月滞在。「ロマネスク」を執筆。後にこの時のことを短編小説「満願」にも記す
1934/8/-		太宰治が三島に約1ヶ月滞在中、熱海で井伏鱒二と待ち合わせ、知人の女性と3人で十国峠から箱根関所、三島まで徒歩で移動（井伏鱒二の随筆、太宰治の富嶽百景のあとがきより）			
1934/9/10				瓜生野～山田間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	
1934/9/10					戸田～戸田新田間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1934/9/10			伊東～八代田～荻問の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1934/9/12					牛臥～桃郷間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1934/12/1		丹那トンネルが完成、熱海から沼津間が電化で開通。			
1934/12/1					丹那トンネル開通で国府津～沼津の御殿場ルートは御殿場線となる。現在の三島駅はこの時開業東海道線三島駅移設に伴い駿豆鉄道線（現在の伊豆箱根鉄道駿豆線）が三島駅に乗り入れ。（現在の駿豆線　三島～修善寺間の営業になる）三島広小路－御殿場線下土狩駅（旧･三島駅）間（2.5km）を廃止。〔駿豆鉄道（現・伊豆箱根鉄道）〕
1934/12/1		◎「つるや」開業（畠山鶴吉）			
1934/12/28			（南伊豆）「手石の弥陀ノ岩屋」が国指定天然記念物になる		
1934/-/-		貿易家の日向利兵衛が熱海に別荘を建てる（地下室は世界的建築家ブルーノ・タウトが設計）			
1934/-/-			（河津）今井浜に李垠（大韓帝国の皇太子）別荘が完成		
1934/-/-		◎桜ヶ丘に一望山荘が開業			

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1934/-/-					☆「駿豆鉄道」が「箱根土地㈱」(後に国土計画興業⇒国土計画⇒コクド⇒現・プリンスホテル)に買収され西武グループとなる。
1935/2/25	昭和10年			(土肥)与謝野鉄幹・晶子夫妻が土肥明治館に宿泊。土肥から宇久須・堂ヶ島～松崎～下田～今井浜泊。	
1935/3/30		熱海～網代間の伊東線が開通。(8.7km)来宮・伊豆多賀・網代の各駅はこの時に開業			
1935/5/18					新宿～下徳倉間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1935/6/7				(函南)「丹那断層」が国指定天然記念物になる(1930年の北伊豆地震で出現した)	
1935/6/28					市場1丁目～霊山寺～二瀬川間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕
1935/7/1					下土狩駅～三島広小路駅間の乗合自動車営業を開始〔駿豆鉄道〕
1935/8/12				川村兵太郎の自動車業(大場～畑毛～多田間)を買収〔東海自動車㈱〕	
1935/8/27				(西伊豆)「堂ヶ島天窓洞」が国指定天然記念物になる	
1935/8/-			片瀬温泉で泉湯80℃、食塩性の熱泉が涌出		
1935/9/10		(湯河原)鞍掛山に夜間飛行用航空灯台が設置され点灯開始される(東京～福岡間定期便のため)〔通信省航空局〕			
1935/10/20			大瀬～石廊崎間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1935/12/10					古沢文作の自動車業(三島～玉沢間など)を買収〔東海自動車㈱〕
1935/-/-			東京～大島～下田間に橘丸就航〔東京湾汽船〕		
1935/-/-					(三島)実業家の佐野隆一が「隆泉苑」を造る
1935/-/-		三菱の岩崎小彌太(四代目)の別邸が建てられる。			
1935/-/-		作曲家　中山晋平の別荘が西山町に建てられる			
1936/2/1	昭和11年		「富士箱根伊豆国立公園」に指定される		
1936/7/-			◎(東伊豆熱川)「熱川館」 開業		
1936/9/25			払～八幡野間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1936/9/-		◎小嵐に「熱海山王ホテル」開業〔安全自動車〕			
1936/11/18			川奈口～川奈港間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1936/11/25		太宰治が熱海の八百松旅館に10日間、その後、村上旅館に1ヶ月ほど滞在。この時に十国峠に来訪した模様。(後の「富嶽百景」に十国峠の記述あり。熱海滞在時、友人に十国峠までのハイキングを誘っている手紙を出している)			
1936/12/6			◎(伊東)川奈ホテルとゴルフコース暫定9h(現富士コース)が開業。東久邇宮稔彦殿下が始球式〔川奈ホテル〕		
1936/12/-		◎「大野屋旅館」開業			
1936/-/-				(西伊豆)俳人　種田山頭火が松崎に来遊。田子から船で沼津に向かう	
1937/2/4				別れ岐～平井～函南間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕	

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1937/3/6	昭和12年		東京銀座に旅客案内所を開設〔東海自動車㈱〕		
1937/4/10		熱海市誕生。（田方郡熱海町と多賀村が合併）			
1937/4/29		熱海自動車車庫が完成〔駿豆鉄道〕			
1937/4/-			◎（南伊豆下賀茂）「伊古奈」 開業		
1937/6/15			（南伊豆町、松崎町、西伊豆町）「伊豆西南海岸」が国指定の名勝になる		
1937/6/20			賀茂自動車株式会社を買収（下田～田牛間の路線と車両）〔東海自動車㈱〕		
1937/6/-		（湯河原）別荘を分譲開始〔東京建物㈱〕			
1937/7/1					（沼津）二代目の「御成橋」が完成（鉄橋、現在の御成橋）
1937/8/-			◎（伊東）川奈ホテルゴルフコース 富士コースに9hが追加され18hとなる。		
1937/9/10			吉佐美～田牛間の乗合自動車営業が認可になる〔東海自動車㈱〕		
1937/-/-		◎熱海宝塚劇場 開設			
1937/-/-		◎熱海偕楽園 開業			
1938/1/-	昭和13年	伊東線の宇佐美トンネルが完成			
1938/4/20			「伊豆だより」（地元情報誌）創刊〔東海自動車単独で発行 現在は伊豆急行・伊豆箱根鉄道と共同で発行されている〕		
1938/5/20					沼津・裾野・下土狩・御殿場駅構内の一般乗用自動車事業の営業許可を受ける〔富士山麓電気鉄道〕
1938/6/13				◎（大仁）「大仁温泉ホテル」開業（現・大仁ホテル）	
1938/9/-				◎十国峠展望台完成〔駿豆鉄道箱根遊船〕	
1938/10/-					◎（沼津）「静浦ホテル」開業
1938/12/15			網代～伊東間8.2kmが開通し、熱海～伊東間の伊東線が全線電化で開通。宇佐美・伊東の各駅が開業（16.9km）		
1938/-/-			◎（河津）見高に「伊豆滝本」開業〔北海道の㈱第一滝本館が伊豆に進出〕		
1939/3/4	昭和14年				（沼津）「沼津交通㈱」が設立される。（現在は伊豆箱根鉄道系列の伊豆箱根タクシー㈱）
1939/3/-		「熱海ブルース」が発売（ビクターレコード）			
1939/5/28		◎「熱海ゴルフ倶楽部」開業（9h 開業当時のグリーンフィー3円、キャディフィー80銭 コース設計 赤星四郎）			
1939/8/13				（伊豆長岡）「伊豆長岡自動車㈱」が設立される（現在、伊豆箱根鉄道系のツバメ自動車⇒伊豆箱根タクシー㈱）	
1939/9/-			◎（伊東）（現・アンジン） 開業		
1939/12/-		◎「熱海スターホテル」（後に大洋ホテル）開業			
1939/-/-				ニューヨークで開催された万博に達磨山からの富士山パノラマ写真が出展された	
1939/-/-		◎（湯河原）加満田 開業			

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1940/1/-			◎（下田）蓮台寺温泉　清流荘　開業		
1940/-/-		川端康成が熱海駅の様子を描いた「正月三ヶ日」を発表			
1940/4/-		◎（湯河原）翠明館　開業			
1940/6/-					（沼津）日本動物園水族館協会が結成され、19園館が加盟。沼津の中之島水族館も加盟した。
1940/7/-	昭和15年		（河津）作家の井伏鱒二、太宰治、亀井勝一郎が河津の南豆荘に宿泊している際に洪水に遭う		
1940/8/-		「熱海スターホテル」が「大洋ホテル」に改称			
1940/10/16				□（大仁）大仁温泉ホテル新館開業　客室38室、大広間20畳、大浴場（100名可）により中伊豆一のホテルとなる	
1940/10/30			本店を下田町から伊東町松原7番地の5に移転〔東海自動車㈱〕		
1940/10/-			◎（伊東）陽気館　開業		
1940/12/23		熱海交通自動車㈱設立			
1941/3/20					（沼津）中ノ島水族館が駿豆鉄道の経営となる〔現・伊豆箱根鉄道〕
1941/4/-			（下田）日の丸自動車㈱設立〔関東バス系列〕		
1941/5/11	昭和16年	貴族院議員の曽我祐邦が松岡洋右外相、オット独大使、インデルリ伊大使と熱海の山荘「小嵐亭」で会談			
1941/8/-		新丹那トンネルの工事始まるが、戦争悪化により、1943年8月に工事中止			
1941/-/-				□（大仁）「大仁温泉ホテル」に離れ　杉の間、梅の間、一棟増築（バス・トイレ付）	
1942/6/1				駿豆鉄道が「大仁合同タクシー」の事業を継承する	
1942/11/27			下田柿崎に吉田松陰の陶像が完成し除幕。高さ1丈1尺、台座を合わせて2丈7尺		
1942/11/-	昭和17年				戦争の影響により、東京～沼津間などの準急列車がすべて普通列車になりスピードダウン。
1942/-/-				◎（大仁）大仁金山に「帝産閣ヘルスセンター」開業	
1942/-/-				□（大仁）「大仁温泉ホテル」に離れ　川瀬、千鳥、菊、竹新築。（バス・トイレ付）	
1943/3/16					駿豆鉄道㈱が沼津～吉原～大宮（現・富士宮）間約22キロの鉄道敷設の免許出願を」するも戦争激化で中止。
1943/4/20	昭和18年				沼津市の東静自動車工業㈱と合併〔富士山麓電気鉄道㈱〕
1943/8/10		「湯河原自動車㈱」を合併する〔駿豆鉄道〕			
1943/-/-		桂内閣のブレーンだったジャーナリストの徳富蘇峰が熱海市伊豆山の別荘、晩晴草堂に移り住む			
1944/4/-		小説家　谷崎潤一郎が熱海市西山に疎開			
1944/8/1		▲「熱海ホテル」が海軍病舎になり、一般営業休止する			
1944/10/-	昭和19年		（伊東）作家の尾崎士郎が伊東に疎開、1954年（昭和29年）まで伊東に住む		

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺
1944/-/-	昭和19年	歌人の佐々木信綱が知人の熱海別荘を借り受け、1963年まで居住。「凌寒荘」と徳富蘇峰が名づける。			
1944/-/-		⇒根津嘉一郎が熱海別邸を桜井兵五郎に譲渡（後の起雲閣）			
1944/-/-		▲熱海万平ホテル　閉館			
1945/2/22	昭和20年		（下田）「伊古奈比命神社のアオギリ自生地」が国指定天然記念物になる		
1945/10/6		⇒小佐野賢治が熱海ホテルを㈱精養軒から買収〔東洋自動車工業㈱（現・国際興業）〕			
1945/12/17		▲「熱海観光ホテル」が連合軍に接収される			
1945/12/17					▲（沼津）「静浦ホテル」が連合軍に接収される
1945/-/-		▲休業中の「熱海万平ホテル」が営業廃止（⇒東京鉄道病院に売却される）			
1945/-/-		▲「大洋ホテル」が営業廃止（⇒東京鉄道教習所に売却）			

※【ご注意】
当資料は，当資料の末尾に記載の参考文献等の基礎資料を基に，できるだけ正確を期して作成しておりますが，参照した基礎資料によってその記載が異なる場合もあり，基礎資料同士で記載が異なる場合には，
個々の事項ごとに，作成者の判断で採用する基礎資料を選択し，これを記載しています。
従って，当資料の内容につきまして，当社および当資料の作成者は，その正確性を保証するものではありません。
当社及び当資料の作成者は，当資料の利用者が当資料の情報によって被った損害，損失について，一切の責任を負いかねます。

◎訂正・修正がありましたら連絡ください。

【参考文献】（順不同）

（熱海市関連文献）
〇市制60周年記念熱海歴史年表（熱海市編）〇市制50周年熱海を語る-明治・大正・昭和写真史-（熱海市編）〇熱海平成歴史年表（熱海市編）
〇「熱海＜十三訂版＞」（熱海市教育委員会編）〇熱海の文化財（熱海市教育委員会編）

（熱海市歴史関連文献）
〇熱海の史蹟伝説（観光文化社編）〇熱海物語（太田君男著・国書刊行会）〇続熱海物語（太田君男著・羽衣出版）〇熱海風土記（山田兼次著・伊豆新聞社）
〇新聞記事に見る熱海の世相・熱海の事件簿（山田芳和著・伊豆新聞本社）

（交通　鉄道・道路）
〇静岡鉄道興亡史（森信勝著・静岡新聞社）〇日本の鉄道こぼれ話（沢和哉著・筑摩書館）〇国鉄のスピード史（イカロス出版・池口英司著）
〇日本の鉄道史セミナー（グランプリ出版・久保田博著）〇箱根山の近代交通（加藤利之著・神奈川新聞社かなしんブックス叢書）
〇〔図説〕日本の鉄道・東海道ライン全線・全駅・全配線（川島令三編・講談社）〇歴史群像シリーズ「図説」国鉄全史（歴史群像編集・学習研究社）
〇週間　歴史でめぐる鉄道全路線　国鉄・JR17　御殿場線/武豊線/伊東線（熱海新聞出版）〇軽便鉄道時代（岡本憲之著・JTBパブリッシング）
〇東海道五十三次ハンドブック改訂版（森川昭著・三省堂）〇JR全線全駅（弘済出版社編）
〇静岡県道路公社史7年の歩み（静岡県道路公社）〇静岡県道路公社史25年史（静岡県道路公社）
〇伊豆半島めぐり（東京鐵道局）〇空駆けた人たち静岡県民間航空史（平木国夫著・静岡産業能率研究所）〇路面電車（宮松丈夫著・コーキ新書）
〇平成12年度　鉄道要覧（運輸省鉄道局監修）〇廃道をゆく2（イカロス出版編）〇懐かしの停車場　東日本編（国書刊行会編）

（ホテル・旅館関連）
〇箱根富士屋ホテル物語（山口由美著・千早書房）〇箱根人の箱根案内（山口由美著・千早書房）〇ホテルと日本近代（富田昭次著・青弓社）〇明治フラッシュバック3ホテル（森田一朗著・筑摩書房）
〇後楽園スタヂアム50年史（後楽園スタヂアム）〇東急ホテルのあゆみ（㈱東急ホテルチェーン編）〇近代日本の国際リゾート（砂本文彦著・青弓社）
〇名作を生んだ宿（矢島裕紀彦・サライ編集部編/小学館）〇星野リゾートの事件簿　なぜお客さまはもう一度来てくれたのか？（中沢康彦著・日経BP社）
〇厳選！公共の宿ベストガイド東日本（カルチャーランド・メイツ出版）〇一度は泊まりたい日本の宿（渡辺淳一著・集英社）

（観光施設）
〇道の駅パーフェクトガイド東海・北陸・信州（ウィル・メイツ出版）〇静岡でがんばる小売店１１０（坂本光司＆坂本研究室著・同友館）
〇全国美術館ガイド（全国美術館会議編・ass）

（新聞報道など）
〇明治ニュース事典（毎日コミュニケーションズ編）〇大正ニュース事典（毎日コミュニケーションズ）〇静岡新聞　（昭和60年～平成7年の一部記事）〇新聞に見る静岡県の100年（静岡新聞社編）
〇静岡新聞五十年史（静岡新聞社）〇静岡放送50年史（静岡放送㈱）〇ふるさと半世紀―伊豆新聞創刊50周年記念誌―（伊豆新聞本社）

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺

（伊豆に関連する企業の社史など）
○小田急五十年史（小田急電鉄株式会社編）○小田急75年史（小田急電鉄株式会社編）○箱根登山鉄道のあゆみ（箱根登山鉄道編）○東海自動車の70年のあゆみ（東海自動車編）
○社内報「伊豆箱根」（伊豆箱根鉄道編）○「いでゆ」（大場朋世著・伊豆箱根鉄道社内報編集室）○国際興業史（国際興業社史編纂室編）○はとバス三十五年史（㈱はとバス編）
○富士山麓史（富士急行㈱創立50周年記念出版）○西武VS東急（日経リゾート編・日本経済新聞社）

（温泉）
○江戸温泉紀行（板坂耀子著・平凡社）○温泉観光の実証的研究（布山裕一著・御茶ノ水書房）○江戸の温泉学（松田忠徳著・新潮社）
○温泉　自然遺産と文化遺産（日本温泉協会編）

（人物　関連）
○人を生かす事業（堤康次郎著・有紀書房）○巨星　堤康次郎（野馬　剛編・岩樹出版）○苦闘三十年（堤康次郎著・三康文化研究所）○西武のすべて（成島忠昭著・日本実業出版社）
○後藤慶太の追想（後藤慶太伝記並びに追想録編集委員会）○わが鐵路長大なり東急五島慶太の生涯（北原遼三郎著・現代書館）
○堤義明　挑戦への軌跡（大下英治著・スポニチ連載1995.3.23～9.17　174回）○淋しきカリスマ堤義明（立石泰則著・講談社）○堤義明　闇の帝国（七尾和晃著・光文社）
○富士を拓く　堀内良平の生涯（塩田道夫著・堀内良平伝刊行委員会、富士急行㈱、財団法人堀内浩庵会）
○政商　昭和闇の支配者二巻（大下英治著・だいわ文庫）○ピカレスク太宰治伝（猪瀬直樹著・文藝春秋）○岩崎小彌太伝（三菱社誌刊行会編）
○政商　昭和闇の支配者四巻（大下英治著・だいわ文庫）○静岡県と作家たち（静岡県教育委員会編・静岡新聞社）
○郷土の発展につくした人々　上巻・下巻（静岡県教育委員会編）○静岡県昭和人物誌（静岡新聞社編）

（江戸・明治の旅行記　紀行関連）
○明治日本旅行案内・東京近郊編（アーネスト・サトウ編著庄田元男訳・平凡社）○富嶽歴覧（伏見功著・現代旅行研究所）
○県別日本古街道事典東日本編（東京堂出版・みわ明編）○新訂　東海道名所図会（下）（ぺりかん社・秋里籬島　原著　粕谷宏紀　監修）

（近隣市町関連文献）
○三島（三島市教育委員会編）○静岡県歴史年表（静岡県歴史教育委員会編・静岡新聞社）○箱根神社　信仰の歴史と文化（箱根神社）
○街道の日本史22　伊豆と黒潮の道（仲田正之編・吉川弘文館）○伊豆と世界史　豆州国際化事始め（桜井祥行著・批評社）
○町史資料第5集「温泉編」（伊豆長岡町文化財保護審議委員会編）○目で見る三島市の歴史（緑星社・友野博著）
○目で見る西伊豆の歴史（緑星社・永岡治著）○目で見る伊東市の歴史（緑星社・竹田信一・杉山紀元　共著）
○目で見る下田市の歴史（緑星社・外岡龍二・佐々木忠夫　共著）○目で見る沼津市の歴史（緑星社・小野真一著）
○伊豆文学紀行ガイドブック（伊豆文学フェスティバル実行委員会・静岡県教育委員会・静岡県編/静岡新聞出版局）
○静岡県と作家たち　近代の文学誌（静岡県近代文学研究会編/静岡新聞社）○沼津　三島　清水町　町名の由来（辻真澄著・静岡新聞社）
○伊豆見聞録（小出和美・金子昌彦共著・長倉書店）○年表で見るモノの歴史事典上・下（ゆまに書房編）
○静岡県の雑学「知泉」的しずおか（杉村喜光著・静岡新聞社）○ぐるる静岡ものしり事典（静岡県観光協会・静岡新聞社編著）
○しずおか辞典発見伝（静岡新聞社編）○時を駆けた橋（仙石規著・静岡新聞社）○伊豆大辞典（伊豆学研究会編・羽衣出版）
○ものと人間の文化史113水族館（鈴木克美著・財団法人法政大学出版局）

【参考Webサイト・協力】（順不同）
（自治体　市町・県・国）
○熱海市○伊東市役所○東伊豆町役場○河津町役場○下田市役所○南伊豆町役場○松崎町役場○西伊豆町役場○伊豆市役所○伊豆の国市役所
○函南町○三島市役所○三島市観光協会○清水町役場○沼津市役所○静岡県庁○文化庁
（観光協会など）
○熱海市観光協会○伊東観光協会○東伊豆町観光協会○大川温泉観光協会○北川温泉観光協会○熱川温泉観光協会○熱川温泉旅館協同組合
○片瀬温泉観光協会○白田温泉観光協会○稲取温泉旅館協同組合
○河津町観光協会○下田市観光協会○南伊豆町観光協会○西伊豆町観光協会○伊豆市観光協会○伊豆の国観光協会○三島市観光協会○沼津観光協会○静岡県観光協会
（ホテル・旅館　宿泊施設）
○ホテルニューアカオ○古屋旅館○新かどや○熱海後楽園ホテル○パイプのけむり○共立メンテナンス○伊東園ホテル○うたゆの宿熱海四季ホテル
○リゾートトラスト○富士急行○藤田観光○万平ホテル○星野リゾート○ホテルサンバレー○畑毛温泉大仙家○新井旅館○四季倶楽部
○プリンスホテル○稲取銀水荘○堂ヶ島ニュー銀水○大沢温泉ホテル○ベリークルーズ○北海道第一滝本館
○星野リゾート○三交イン○呉竹荘○ARCANA　IZU
（交通事業者）
○東日本旅客鉄道○東海旅客鉄道○伊豆急行○小田急電鉄○小田急箱根ホールディングス○小田急箱根高速バス○東海自動車○中日本高速道路
○TOYO　TIRESターンパイク○静岡県道路公社○西武ホールディングス○伊豆箱根鉄道○東京急行電鉄○東海汽船○堂ヶ島マリン○伊豆クルーズ
○滝野川自動車○富士山静岡空港○エスパルス・ドリームフェリー○戸田運送船
（観光施設　美術館・園地事業など）
○イー・ゴルフ㈱○西武ゴルフ
○伊東マリンタウン○伊東東海館○東海館○伊豆シャボテン公園
○熱川バナナワニ園○伊豆アニマルキングダム○加森観光

西暦	年号	熱海・湯河原・真鶴	伊東～下田・南伊豆	西伊豆・中伊豆	沼津・三島周辺

〇下田海中水族館
〇伊豆の国パノラマパーク〇伊豆洋らんパーク〇虹の郷〇サイクルスポーツセンター
〇沼津御用邸〇沼津みなと新鮮館〇沼津魚市場INO（イーノ）戸田造船郷土資料博物館〇伊豆・三津シーパラダイス〇あわしまマリンパーク
〇三島楽寿園〇山本食品
（旅行会社）
〇JTB〇近畿日本ツーリスト〇日本旅行〇Yahoo〇楽天〇るるぶ〇MAPPLE